

令和7年度 保育所における自己評価

園名 佐賀市立城東保育所

保育所保育指針では、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価結果を踏まえ、当該保育所の保育内容等について自ら評価を行い、その結果を公表するように努めなければならない」ことが明記されています。このことに基づき、佐賀市公立保育所では毎年自己評価を実施しております。評価の結果を踏まえ、よりよい教育・保育に向けた、改善や充実に取り組んでまいります。

園目標	
保育理念	感性豊かで活力あふれる子どもの育成
ねがい	健やかな成長 ～こどものえがお おとなもえがお～
保育目標	豊かな心を育む 気付きを育む 生きる力・生き抜く力の基礎を育む

【評価結果の表示方法】 ※評価するにあたっては、以下のような基準で行っています。

A:90%以上・・・十分達成されている。

B:70～89%・・・達成されている。

C:50～69%・・・取り組みがされているが、成果が十分ではない。

D:49%以下・・・取り組みが不十分である。

評価項目	ABCD 評価	評価内容
保育方針・保育目標	B	保育方針・保育目標を理解し、かつ課題を共有していた。
子どもの発達援助	B	一人ひとりの子どもや集団の姿をとらえ、全職員で保育を行った。
保護者との連携	B	懇談や送迎時に保育内容や子どもの様子を伝え、保護者に寄り添った連携をした。
地域との連携	B	子育て支援機関や医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供した。
運営・管理	B	職員の役割分担と責任を明確にし、能率的かつ迅速な対応ができる体制であった。
職員の資質向上	B	実践的研修に取り組み、日常の保育に生かして子どもの育ちに反映した。
健康・安全	B	園内外の危険箇所の見直しや衛生的な保持に努めた。
食育	B	個別に配慮した食事を提供し、子どもが楽しく食べ、食べる意欲が育つ工夫をした。

総合評価

【保育方針について】

昨年に続き、職員同士で細やかに気づきや疑問を相談することを意識して取り組んだ。課題点に対し、自ら行動に移す判断や責任感、子ども理解と関わり、技術の共有など、さまざまな点で向上の余地があると考え『B』とした。

【子どもの発達援助】

発達支援に関する情報共有を密にすることで、より行き届いた支援になると考えられるところがある。また、保育の質の向上につながるためには、話し合いに先立って個々の保育に関する感覚や知識をより豊かにする必要があるとして『B』とした。

【保護者との連携】

日常に加え行事でも写真や動画を用いて保育の見える化に努めた。情報発信後のアプローチにおいて外部機関を案内、つなぐといったフォローに一層力を入れる必要がある。そのためのスキルや知識も今以上に個々のレベルアップが必要と考え『B』とした。

【地域との連携】

近隣の方には、蜂の巣駆除やサンタ役をしていただくなど、子どもたちの安全で楽しい園生活のために協力いただいた。より一層、近隣の方や地域に親しむきっかけとなる活動を充実させたい思いで『B』とした。

【運営・管理】

クラス担任以外の役割として様々なリーダーや担当を行う体制を整えた。それぞれの役割を果たすに当り、経験不足やコミュニケーション不足を原因とした業務の遅延や停滞を招いた点もあった。見通しをもった協力、情報共有の体制が取れるよう改善ができると考え『B』とした。

【職員の資質向上】

幅広い研修を受け、個々の知識やスキルには伸びがある。個々の学びを実践で十分生かしているか、というところは伸びしろがある。また、学びの内容の共有を図って職員全体の保育力向上につなげる取り組みは、今より一層の努力を要すると考え『B』とした。

【健康・安全】

ヒヤリハットやけがの処置、緊急対応のマニュアルを全職員が共有し万が一の際対応に遅れを取らないという意識で行動できた。毎月の安全点検では、危険箇所の把握、定期的な担当課への報告、簡易修繕を行った。保育室等の衛生面の保持は、意識を強めるべき部分があるため『B』とした。

【食育】

クッキングや野菜の栽培では、口にするまでの過程を楽しむことで食への関心、興味が深まった。保護者に対してのおやつ、給食試食会、給食参観を行い、理解を深めていただくきっかけとなるよう取り組めた。食への意欲や食べ物を大事にする意識など、この時期に育てたい姿を目指して取り組みが必要な部分もあると考え『B』とした。

来年度に向けた取り組み

～こどものえがお おとなもえがお～のために

- ・保育者、保護者の協力関係の維持強化に努め、子どもの豊かな経験の質の向上を図る。
- ・地域との交流を深め、緊急時に助け合うことのできる関係づくりを進める。
- ・幅広く学び、職員間や保護者へアウトプットをし、保育の質の向上、子育て支援の充実を目指す。
- ・常に気づきを発信し、語り合える職場であることを意識して業務にあたる。
- ・各役割のリーダーを筆頭に、声を掛け合い時間を意識した業務遂行と助け合いに努める。